

令和元年7月10日号 (第198回)

# 阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

今回の阿伎留通信は、「5階東病棟のご紹介」をテーマに、5階東病棟の村木 祥子 看護師長よりお話しさせていただきます。

5階東病棟（ベッド40床）は、近隣の公立病院で唯一の回復期リハビリテーション病棟として2009年に開設し、そこから10年間、患者さんにリハビリを提供してきました。

当病棟への入院は、医療法により対象の疾患や期間が決められており、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの四肢・骨盤骨折やその他の急性期治療を終えた方が対象となります。

主治医がおひとりおひとりにあわせてリハビリの治療計画をたて、それに基づいてスタッフが協力して、入院から退院までの障害の医学的マネジメントを行っています。

回復期リハビリテーション病棟の目的は、日常生活動作（ADL）の改善、寝たきり防止、在宅復帰です。これらの目的のために、患者さんは機能訓練を受けますが、患者さん自身が「自分は今からこうなりたい」と目標に向かって可能性に挑戦する力を発揮できるようになることで、目的が達成できます。



そのために5階東病棟の看護師・医師・コメディカルスタッフは、人としての尊厳を守れるように配慮しながら、患者さんの主体性が回復し、変化しようとする力が促進されるような支援をする事を念頭に日々役割を遂行しています。

## 《病棟スタッフ》

医師：2名

看護師：13名（師長1名・主任2名）

看護補助者：2名

専従コメディカルスタッフ：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ソーシャルワーカー



## 《特徴》

- ・ 個々に指示された訓練以外に、毎日立ち上がり訓練やレクリエーションを実施しています。
- ・ 合同カンファレンスで、多職種間の情報を共有し、患者さん個々の目標を定めています。
- ・ 運転シミュレーターを設置しています。
- ・ 患者さんの状況に応じて、家屋評価にスタッフが出向きます。
- ・ 食堂で食事をとり、日中は動きやすい服装で過ごし、夜間はパジャマに着替える等、日常生活を意識した入院生活を提供しています。

上記の特徴を活かし、入院時から自宅退院を目指し、退院後の生活の質（QOL）を考えた看護を提供することを目標としております。

阿伎留通信については、バックナンバーを公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)